

2019年10月8日

高等教育キーパーソン各位

地域科学 KKJ セミナーニュース 531

国連SDGs活動への参画——

持続可能な社会づくりへの大学の責務

～ 17目標 169ターゲット実現への教育・研究とは／内外での挑戦事例 ～

《 10月28日（月）開催 》

ご参画・ご派遣のお願い

「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が全会一致で採択されたのは、2015年9月の国連総会でした。

それから4年、この17の目標は「SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）」の名称で、広く一般に浸透した感があります。17の目標のさらなる具体的な目標である「169のターゲット」に向けて、取組みを進めている企業・自治体・NPOとともに高等教育機関が増えております。それら先進事例の情報収集ならびに実践に日々精励されていることと拝します。

毎年、『逆引き大学辞典』を発行している広告社からも、「SDGsにどう取り組むか」という視点から学問分野、さらには志望校を見つけるヒントにする特集号が本年5月に発行されております。

大学・法人のウェブサイトでSDGsにどう向き合い、どう取り組んでいるかを示し、事業計画書では、「事業」ごとに17の目標のいずれに該当するのか、事業報告書では、事業計画で示したものがそれぞれどの程度達成されたのか、達成できなかった場合にはその理由や今後の方向性を示していく——このように“本気”での取組みは単なる情報公開やステークホルダーへの情報発信になるだけではなく、受験生の志望校選びの判断の一つにもなる時代が到来しつつあります。逆に、取組まなければ、貴学の持続可能性は……。

学生の主体的な行動や自主的なサークル活動においても活発であります。本セミナーでは「大学の責務」とのタイトルの通り、大学における「SDGs」実現に向け主体的な取組みを中心にスポットを当てたいと考えます。

第1講の大竹 暁氏（東京大学）からは、SDGsの理念・意義とその包摂性、科学技術イノベーションへの期待、大学の教育・研究の役割と取組み事例などについて、基調講義を賜われます。

そして、SDGsに大学として積極的に取り組んでいる事例として、3大学のキーパーソンからご報告を賜われます。

第2講では、原科 幸彦氏（千葉商科大学）から学長プロジェクトとしてSDGsに取組み、本年2月に達成が発表された「自然エネルギー100%大学」の取組みやESG投資の実際について、ご報告を賜われます。

第3講の田島 睦浩氏(神奈川大学)からは、建学の精神から将来構想との取組みの連関や「THE Impact Rankings」といった外部からの評価、そして、自治体等の連携の実際について、ご報告を賜ります。

第4講は伊野 英男氏(岡山大学)より、SDGsに向けての全学的な取組み、ガバナンスへの取り入れ、あらゆる教育・研究の面における地域とのパートナーシップ、そして世界を見据えた今後の展開について、ご報告を賜ります。

つきましては、ご多用の折とは存じますが、貴学のキーパーソン各位に、ぜひともこの機会にご参画・ご派遣を賜りますよう、お願い申し上げます。

また、ご関心の各位にご転送・ご案内いただけましたら、幸いです。
パンフレット版は、下記よりご覧いただけます。

<http://chiikikagaku-k.co.jp/kkj/seminar/191028.pdf>